

国上の竹の資源化に取り組む

道の駅 SORAIRO 国上と分水高校ボランティア部、地域住民が連携し、国上山の竹を資源化するプロジェクトを実施しています。取り組みの一環として、国産メンマ作りに挑戦。分水高校ボランティア部の丸山遙日さんに意気込みや今後の目標を伺いました。

5月6日、分水高校のボランティア部の部員たちは、国上山の麓にある竹林へ向かい、タケノコの収穫と幼竹の伐採に挑みました。副部長の丸山さんは収穫時の様子について

「竹林に入ったときは少し緊張しましたが、すぐに慣れて楽しく作業できました。幼竹を切るのは予想以上に爽快な体験でした」と語ります。

メンマ作りは、まず皮むきから始まります。次に適当な大きさに切り分けて茹で、塩漬けにします。この取り組みは、放置竹林の竹を活用するため、竹林の管理にもつながります。

5月6日、分水高校のボランティア部の部員たちは、国上山の麓にある竹林へ向かい、タケノコの収穫と幼竹の伐採に挑みました。副部長の丸山さんは収穫時の様子について

「竹林に入ったときは少し緊張しましたが、すぐに慣れて楽しく作業できました。幼竹を切るのは予想以上に爽快な体験でした」と語ります。

メンマ作りは、まず皮むきから始まります。次に適当な大きさに切り分けて茹で、塩漬けにします。この取り組みは、放置竹林の竹を活用するため、竹林の管理にもつながります。

5月6日、分水高校のボランティア部の部員たちは、国上山の麓にある竹林へ向かい、タケノコの収穫と幼竹の伐採に挑みました。副部長の丸山さんは収穫時の様子について

「竹林に入ったときは少し緊張しましたが、すぐに慣れて楽しく作業できました。幼竹を切るのは予想以上に爽快な体験でした」と語ります。

メンマ作りは、まず皮むきから始まります。次に適当な大きさに切り分けて茹で、塩漬けにします。この取り組みは、放置竹林の竹を活用するため、竹林の管理にもつながります。



分水高校ボランティア部

●分水高校ボランティア部
副部長 丸山遙日さん（1列目右から3番目）



燕市は、これまでの「胃部エックス線検診」に加えて、検査の精度がより高い「胃がん内視鏡検診」を県立吉田病院との連携により6月から開始します。

対象者は50歳から68歳までの偶数年齢の市民。自己負担額は1000円です。

胃がん検診の選択肢を増やし、検診の受診率を高めることで、胃がんによる死亡率の減少を目指します。

このプロジェクトは、地域の資源を活かしながら持続可能な地域社会を目指す試みです。丸山さんはこれから目標について

「もっと多くの地域の人たちと協力して、竹林の整備と竹の資源化を広めていきたいです。そして、この経験を通じて地元を盛り上げていきたいと考えています」

と熱く語りました。

紙上ブログ
燕市長 鈴木力

▼これが有料広告です。

レンタカーなら！

中野自動車商会福祉車両部



【パート求人・未経験OK】週20時間以下勤務、週1~OK！
あなたが輝きながら仕事ができる。子育て世代のママさんへ

”人手不足で困っている企業をプロデュースする”

あなたが求められる仕事

【採用広報プランナー】

・人に接しながら、困っている人を助ける面白い仕事をしたい方へ
・リモート勤務の場合もあり(フルリモートではありません)、直行直帰あり



And seren

新潟

※この広報紙は、環境にやさしいペジタブル・オイル・インクを使用しています。